

乗ってて楽しいクルマでなくては

(株)トライアル

☎0729-65-6823

代表取締役

牧原道夫さん



これまでのチューニングといえば、MAXパワー重視や直線重視といった、とにかくエンジンを極めていく方向に片寄っていたと思う。ある面では満足するんだけど、乗ってて、

やっぱり疲れるんだよね。'90年代のチューニングは、乗ってて楽しいクルマでなくては。アクセルを踏んでやれば、気持ちよくスピードが出て、構えることなく、スポーティドライブが楽しめるクルマだね。

トライアルではすでにGT-Rを購入してチューニングを始めている。ノーマルで乗ってみて、総合評価は95点。車高が高いのと4人乗りなのがマイナスだね。パワーはノーマルで278ps(シャーシダイナモ計測)あるんだけど、コンピュータチューン、過給圧アップ、スポーツマフラーで340~350psぐらいまで上げてやれば

いいんじゃないかな。フルタイム4WDだからタービンも交換してやって、400psまでは乗れると思う。しかし一般的には、低速トルクを犠牲にしてやって、そこまでは必要はないと思う。うちのGT-Rに関しては、エンジンからフルタイム4WDまで、ノーマルのポテンシャルを徹底的に調べるため、フレキシビリティなそれなりのチューニングを施すつもりだ。

ZはGT-Rに比べてトルクバンドが狭いね。タービンを小さくして低速からブーストパワーを出そうとしているから、高速ではしんどいね。

しっかりとした基礎データから作る「乗って楽しいクルマ」

(株)HKS関西サービス

☎07438-4-0126

代表取締役

向井敏之さん



ただ速いだけのチューニングは、もういいよね。やっぱり乗って楽しいクルマでないと面白くない。エアコンが使えて、オーディオの音がよく聞こえて、ノーマル車と同じようにメンテナンスフリー……、ようするに、クルマ全体をとらえた上でのトータルバランスがよくなければダメだよ。

'90年代は、チューニングというものを、もっともっと一般的にしていきたいと思う。そのためにも、乗り易くて楽しいクルマを作っていくようにしなくちゃいけないわけだ。

HKS関西サービスとしては、これからは、どんなクルマをチューニングするにしても、ひとつのやり方にこだわらないで、いろいろなパターンを“メニュー”を用意するようにしてみたいね。そしてユーザーは、そのメニューのなかから、自分の好

みや使い方に合うものを自由に選べる……、とっても素敵だよ。

もちろん、そのためには、ユーザーの要望に即座に応じれる知識と技術が何よりも重要になってくる。それには、ノーマル車の基礎データをしっかりと研究し、理解していなければならないね。

たいへんな事なんだけど、これっていうのは、これからの時代のチューニングにとって一番大切なポイントだと思うんだ。ただ、パーツを交換すればいいっていうんじゃなく、「ノーマルの状態だと、ここがこうだから、こういうパーツを使ってこういうふうにする」という感じでチューニングしたいね。

また、公認パーツを使った、“認められたチューニング”というものもどんどん増えてくるだろうね。HKS、HKS関西サービスともそのあたりにももちろん力を入れている。



スカイラインGT-Rの仕上がりも含めて、来年のオートサロンでは、みんなをビックリさせるからね。

'90年代の2ターターはいよいよ3ターターの時代

藤田エンジニアリング ☎0729-49-1313

代表

藤田儀晴さん

いま、チューニングはひとつの転換期にきていると思う。一部のマニ

